

各位

日本ウォーターズ、トーチとの 液クロ分析・分取の自動化を目指した業務提携に関するお知らせ

株式会社 ChromaJean（本社：神奈川県藤沢市、代表取締役社長兼 CEO：三輪勝彦）は、トーチ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：石澤祐介）と日本ウォーターズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：三宅武則）と、液体クロマトグラフィーを用いた分析・分取プロセスの自動化を実現するための業務提携契約を締結しましたので、お知らせいたします。

当社は、液体クロマトグラフィーを用いた分析・分取プロセスに関して、いつでも・どこでも・誰でも同じ結果が得られることを目指し、独自のソフトウェアを開発し、仕組み化されたプラットフォームとして提供しています。プラットフォームを導入いただいた医薬品メーカーや受託試験企業においては、熟練者の経験と勘に依存した従前の分析・分取プロセスからの訣別を実現した実績があります。

また、2024年7月1日から、ユニークなロボット技術を有するトーチとの協業により、仕組み化された分析・分取プロセスとロボットシステムを組み合わせた全自動プラットフォームの提供も開始しています。小回りがきき省スペースなトーチのロボットシステムは、大規模なロボット設備と比較して、迅速にロボットシステムを構築・導入することが可能であり、業務内容に柔軟性が求められる研究現場において、費用対効果の高い自動化を期待できます。

今般、仕組み化を中核としたソリューションのさらなる発展・展開を目指し、液体クロマトグラフィーの最大手メーカーである日本ウォーターズの参画によって三者間での業務提携に拡大することを決定しました。仕組み化の効果の最大化を目指し、サードパーティとの連携に積極的な日本ウォーターズ製装置と仕組み化の連動、当該装置の調整・改良に緊密に取り組んで参ります。三者協業による自動化された分析・分取プラットフォームの普及を今後一層進めていきます。

ChromaJean の代表取締役社長兼 CEO 三輪勝彦は次のように述べています。

当社は、研究開発型企業の研究活動における生産性向上を目指し、研究サイクルのボトルネックとなっている分析・分取プロセスを仕組み化したソリューションを提供しています。今回の三者間での業務提携により、仕組み化を起点とした全自動化をさらに強力かつ確実なソリューションへと深化させることができます。競合優位性のある業務に注力できる研究体制の構築は近年ますます重要となっており、当社は分析・分取プロセスの全自動化を通じて貢献できるよう邁進して参ります。

トーチの代表取締役社長 石澤祐介は次のように述べています。

我々は協働ロボットを活用し、柔軟で汎用性の高いラボオートメーションシステムを提供しています。しかし、研究者が都度判断しながら行っているような実験の自動化や、外部装置との連動が考慮されていない機器の組み込みにはハードルがあります。そんな中、ChromaJean の仕組み化は誰でも同じ結果が得られる自動化に適したプラットフォームであり、日本ウォーターズの協力のもとハードウェアも含めて最適化することで、より一層分析・分取プロセスの生産性を格段に高められると考えています。

日本ウォーターズの代表取締役社長 三宅武則は次のように述べています。

当社は、液体クロマトグラフィーと質量分析の世界的メーカーの日本法人として、長きに渡り日本のお客様に革新的製品とサービスを提供して参りました。また、当社の装置システムと ChromaJean の仕組み化を組み合わせた画期的なクロマトプロセスの改善ソリューションの提供を開始しておりました。この度、ユニークなロボット技術を有するトーチとも協業する事となり、装置システム・仕組み化・自動化を統合したトータル・ソリューションを提供することによりクロマトプロセスに革新的変化をもたらすことが出来ると考えております。

■ 会社概要

株式会社 ChromaJean

代表取締役社長 三輪 勝彦

〒251-0012 神奈川県藤沢市村岡東二丁目 26 番地の 1

<https://chromajeans.com>

トーチ株式会社

代表取締役社長 石澤 祐介

〒135-0063 東京都江東区有明 3-7-26 有明フロンティアビル A 棟 1F

<https://torchs.jp/>

日本ウォーターズ株式会社

代表取締役社長 三宅 武則

〒140-0001 東京都品川区北品川 1 丁目 3 番 12 号 第 5 小池ビル

<https://www.waters.com/nextgen/jp/ja.html>

■ 用語説明

注 1) クロマトグラフィー

移動相（気体・液体・超臨界流体）と固定相（カラムと呼ばれる管）を組み合わせることで、複数の物質が混ざった混合物を大きさ・質量・物性などの違いを利用し、物質を分離・精製する技法の総称。

■ 参考資料

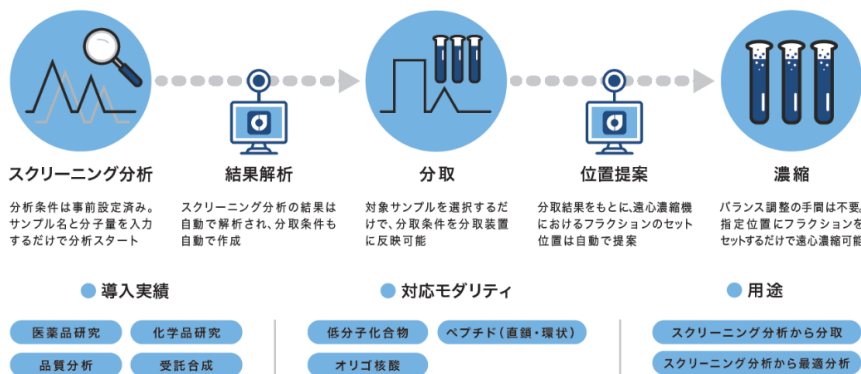
● 三者が考える課題と解決策

たとえば、創薬研究において、液体クロマトグラフィーを用いた分析・分取プロセスの生産性向上のための取り組みは、他のプロセスと比較して不十分なケースが散見されます。そのため、創薬研究のボトルネックとなっている分析・分取プロセスを自動化することで、創薬研究の組織全体が効率化されると期待できます。三者協業によって提供するトータル・ソリューションは、研究開発型企業が競争優位性の高い研究に注力し、次世代型といえる新たな研究環境を構築することに貢献します。



● 仕組み化されたプラットフォーム (Jeanious One LC)

サンプルのスクリーニング分析から分取、濃縮までを、いつでもどこでも誰でも同じ結果を得られるようにしたプラットフォームを、ChromaJean は提供しています。



● 三者で提供するトータル・ソリューション (Jeanious One LC+Robot)

仕組み化されたプラットフォームに、トーチのロボットシステムを追加することで、24 時間 365 日を有効活用できる実験環境を実現します。さらに、最大手メーカーである日本ウォーターズと協業することで、装置と仕組み化の連動の強化によって仕組み化の恩恵を最大化して参ります。

Jeanious One LC + Robot 3つのアプローチ

必要最小限の分析・分取ワークフローを構築すべく、はじめに装置と装備品の組み合わせを「規格化」します。その上で、分析・分取条件を自動作成できるソフトウェアを導入することで、スピード性と高い成功確率の両立が実現。さらにロボットを導入することで、分析・分取業務が自動化され、ラボオートメーションシステムが完成します。



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社 ChromaJean 広報 Mail : contact@chromajeans.com